

# 蟹のしょうばい

新美南吉

青空文庫



蟹かにがいろいろ考えたあげく、とこやをはじめました。蟹かにの考え  
としてはおおできでありました。

ところで、蟹かには、

「とこやというしよばいは、たいへんひまなものだな。」  
と思もういました。と申もうしますのは、ひとりもお客さんがこないから  
であります。

そこで、蟹かにのとこやさんは、はさみをもって海つぱたにやつて  
いきました。そこにはたこがひるねをしていました。

「もしもし、たこさん。」

と蟹かにはよびかけました。

たこはめをさまして、

「なんだ。」

といました。

「とこやですが、ごようはありませんか。」

「よくごらんよ。わたしの頭に毛があるかどうか。」

蟹はたこの頭をよくみましました。なるほど毛はひとすじもなく、つるんこでありました。いくら蟹がじょうずなどこやでも、毛のない頭をかることはできません。

蟹は、そこで、山へやっていきました。山にはたぬきがひるねをしていました。

「もしもし、たぬきさん。」

たぬきはめをさまして、

「なんだ。」

といいました。

「とこやですがごようはありませんか。」

たぬきは、いたずらがすきなものですから、よくないことを考えました。

「よろしい、かってもらおう。ところで、ひとつやくそくしてくれなきやいけない。というのは、わたしのあとで、わたしのお父さんの毛もかってもらいたいのさ。」

「へい、おやすいことです。」

そこで、蟹かにのうでをふるうときがきました。

ちよつきん、ちよつきん、ちよつきん。

ところが、蟹<sup>かに</sup>というものは、あまり大きなものではありません。蟹<sup>かに</sup>とくらべたら、たぬきはとんでもなく大きなものであります。

その上たぬきというものは、からだじゅうが毛むくじやらであります。ですから仕事はなかなかはかどりません。蟹<sup>かに</sup>は口から泡<sup>あわ</sup>をふいていっしょうけんめいはさみをつかいました。そして三日かかって、やっとのこと仕事はおわりました。

「じゃ、やくそくだから、わたしのお父さんの毛もかってくれたまえ。」

「お父さんというのは、どのくらい大きなかたですか。」  
「あの山くらいあるかね。」

蟹<sup>かに</sup>はめんくらいしました。そんなに大きくては、とてもじぶんひとりでは、まにあわぬと思いました。

そこで蟹<sup>かに</sup>は、じぶんの子どもたちをみなとこやにしました。子どもばかりか、まごもひこも、うまれてくる蟹<sup>かに</sup>はみなとこやにしました。

それでわたくしたちが道ばたにみうける、ほんに小さな蟹<sup>かに</sup>でさえも、ちゃんとはさみをもっています。



# 青空文庫情報

底本：「ごんぎつね 新美南吉童話作品集」てのり文庫、大日本図書

1988（昭和63）年7月8日第1刷発行

底本の親本：「校定 新美南吉全集」大日本図書

入力：めいこ

校正：もりみつじゅんじ

2002年12月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# 蟹のしょうばい

新美南吉

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>